

作成日：2015年06月01日  
改訂日：2019年09月27日  
改訂日：2022年05月20日  
改訂日：2023年06月21日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	真空ポンプオイル
製品コード	VP005(150ml)、VP083(300ml)
供給者の会社名称、住所及び電話番号	アサダ株式会社 名古屋市北区上飯田西町3-60 052-911-7165
緊急連絡電話番号	052-911-7165
FAX番号	052-914-2062
担当部門	営業本部
メールアドレス	sales@asada.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	真空ポンプの油

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	区分に該当しない
環境に対する有害性	区分に該当しない

#### GHSラベル表示

絵表示



注意喚起語

なし

危険有害性情報

蒸気やミストを吸入した場合、胸のつかえ感とともに喉の炎症を起こすことがある。  
飲み込むと消化器系の不快感を引き起こすことがある。  
適切な洗浄を行わず、長期的または継続的に皮膚に接触させた場合毛穴をふさぎ、にきび・毛包炎等の疾患を引き起こす可能性がある。  
直接目に入った場合、若干の刺激と発赤が予想される。

注意書き

安全対策

目に入れないこと。飲み込まないこと。皮膚に触れないこと  
ミストを吸入しないこと

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石けんで洗うこと  
吸入した場合は新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させて直ちに医師に連絡すること  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないで直ちに医師の診断を受けること  
眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。医師の診断を受けること

保管

換気の良い所で保管すること。容器を密閉しておくこと  
施錠して保管すること

廃棄

子供の手の届かない場所に保管すること  
内容物や容器を、都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること

不明な場合は購入先に相談し処理すること

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	混合物
化学名又は一般名	石油系炭化水素、添加剤
化学特性（化学式）	CnHm
成分及び含有量	石油系炭化水素 > 90質量%
CAS No.	64742-54-7
危険有害成分	化学物質管理促進法 非該当 労働安全衛生法（第57条の2 通知対象物） 168 鉱油 毒物劇物取締法 非該当

### 4. 応急処置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸がしやすい姿勢で休息させる。 身体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと 皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診察/手当てを受ける。
眼に入った場合	清浄な水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、直ちに医師に連絡する。 口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。
急性症状及び遅発性症状の 応急措置をする者の保護	目に入ると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると肺炎や肺水腫を引き起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 誤飲した場合、下痢、嘔吐する可能性がある。

### 5. 火災時の措置

適切な消化剤	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消化剤が有効である。
使ってはならない消化剤	棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特定の危険有害性	一酸化炭素・硫黄化合物・その他正体不明の有機化合物や無機化合物がオイルに混合した場合、オイルが燃焼する恐れがある。 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
特有の消火方法	火元への燃焼源を絶つ。周囲の設備等に散水して冷却する。
消火を行う者の特別な保護	消火作業は保護メガネ、保護衣、状況によっては呼吸保護具を着用して風上から行う。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	皮膚に触れたり眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。
保護具及び緊急時措置	ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
環境に対する注意事項	土壌汚染、水質汚濁に繋がるので可能な限り回収する。河川・下水道などに排出されないよう注意する。環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏えい物を密閉できる容器に回収し、後で廃棄処理すること
封じ込め及び浄化の方法・機材	周囲の着火源を取り除く。 少量の場合、土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、更にウエスなどで完全に拭き去る。

大量の場合、盛土で囲って拡散防止をはかってから、掃き集めて空容器に回収後、安全な場所にて処理する。処理後は大量の水で洗い流す。この場合、濃厚排水が河川等の公共水路に流入しないように注意する。

海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合は国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）関係箇所に通報し応援を求める。

## 二次災害の防止策

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

指定数量以上の量を取扱う場合は、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。火花、炎、高温体等との接触を避けると共に、みだりに蒸気を発散させないこと

皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。

静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。

危険物が残存している機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。

室内で作業を行う場合は、十分な換気を行う。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと

#### 安全取扱い注意事項

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触はしないよう注意する。

### 保管

#### 技術的対策

保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。容器は必ず密栓する。

#### 安全な保管条件

危険物の表示をして保管する。

換気の良い場所に保管する。

直射日光を避け保管する。

酸化剤から離して保管する。

施錠してから保管すること

## 8. ばく露防止および保護措置

### 管理濃度

規定なし

### 許容濃度

ACGIH TLV-TWA 5mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)

ACGIH TLV-STEL 10mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)

### 設備対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。

取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

### 保護具

#### 呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用する。

#### 手の保護具

必要に応じて耐油性保護手袋を着用する。

#### 眼の保護具

飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用する。

## 9. 物理的および化学的性質

物理的状态	液体
色	透明
臭い	わずかな石油臭
融点/凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界および爆発上限界	データなし
可燃限界	データなし
引火点	232℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
PH	6.0～6.5
動粘性率	41.4～50.6mm <sup>2</sup> /s (40℃)
溶解度	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
流動点	-10℃以下
蒸気圧	データなし
密度及び相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性および反応性

反応性	
化学的反応性	常温で安定
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混合接触危険物質との接触を避ける。
混合接触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、一酸化炭素が生成される可能性がある。

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	ラットLD50 > 5000 mg/kg
急性毒性（経皮）	ラットLD50 > 5000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚刺激性に区分する情報はない。長時間または繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるため注意すること
眼に対する危篤な損傷性・眼刺激性	ウサギを用いた実験により、軽度の刺激性が生じると記述されている報告がある。
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
生殖毒性・授乳影響	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	40℃で測定した場合の動粘性率が20.5mm <sup>2</sup> /sまたはそれ以下の炭化水素であり、ヒトの鉱油の摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。

## 1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	情報なし
水生環境有害性(長期間)	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

## 1 3. 廃棄上の注意

## 残余廃棄物

内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること  
事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

## 投棄禁止

埋立処分を行う場合にはあらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

または燃焼する場合は安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。  
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 汚染容器及び包装

## 1 4. 輸送上の注意

## 国際規制

## 国連分類

該当しない

## 国内規制

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

## 陸上

消防法 第4類危険物 第4石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ

## 海上

船舶安全法 非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて）

## 航空

非危険物

## 特別の安全対策

運送容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。容器が著しく摩擦や動揺を起こさないように運搬する。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること

## その他

その他関係法令の定めるところに従う。

## 1 5. 適用法令

## 消防法

第4類危険物 第4石油類 危険等級Ⅲ

## 労働安全衛生法

通知対象物

## 海洋汚染防止法

油分排出規制

## 化学物質管理促進法

該当しない

## 下水道法

鉱油類排出規制

## 水質汚濁防止法

油分排出規制

## 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物規制

## 毒物及び劇物取締法

該当しない

## 16. その他の情報

### 参考文献

日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 (OELs)

米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)

原材料メーカー発行安全データシート

記載内容は現時点で入手できる資料データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。注意事項は通常の実用を前提とし、また記載内容は情報提供であって保証するものではありません。危険・有害性の評価を絶対視する事なく、取扱いには十分注意して下さい。